

特集 SPECIAL FEATURE

がんばる理科大OG

まだまだ男性社会というイメージの強い建築の世界で、健闘する理科大OGの活躍ぶりを、設計事務所・行政・建設会社で、設計に携わる女性達に報告していただきます。

社会人2年生、奮闘中。

小西 聖子(部37期)
安井建築設計事務所

現在、私は設計事務所で設計担当として働いています。私の事務所は、東京事務所設計部の若手社員10人中5人が女性という女性がとても元気な職場です。私を含めて皆、一様にしゃべること食べることを飲むことが好きで集まってはわいわいとさわいでいます。

社会人になると時間が過ぎるのがとても早いと聞いてはいましたが、入社して一年半、初めは右も左もわからない状態から、がむしゃらに走り続け、本当に「あっ!」という間に過ぎていったように思います。

現在までプロポーザルなどをあわせると工場、図書館、ホテル、集合住宅、消防署、教会など多種多様な建物の設計業務に携わってきました。その中でも去年の夏から関わり続けているある生産施設の設計業務では、様々な事柄を経験し、学ぶことができたと感じています。去年の夏にプロポーザルが行われ、当社が設計者として選定されました。入社して初めて本格的に携わったプロポーザルだったため、とてもうれしかったことを憶えています。そこから、プランの検討はもちろん内外装材・セキュリティなどの機能・コスト比較、対外的にアピールできる生産施設におけるあり方



左から2人が筆者

の検討、生産機械担当会社との綿密な打ち合わせなどを行ってきました。また生産機械の実験都合で半年間業務が休止し、現在は再開していますが基本設計がまだまだ続くと思われます。その一年以上続く長い行程の中で、私は設計する建物がどんなものでも、ひとつひとつ一品生産であり、さまざまな角度・視点から検討を積み重ね、クライアントや協力会社の方々と共に一丸となって一つの目標に向かって取り組むものだと、いうことを改めて実感しています。

このように試行錯誤の繰り返しの毎日ですが、これからも「よく学び、よく遊べ!」をモットーに元気いっぱい頑張っていきたいと思います。

長い夏でした

岩崎聡子(部13期)
法務省大臣官房施設課

私が勤務している法務省施設課は、刑務所、少年院、法務局、入国管理局等の計画・設計を行っています。刑務所の設計については、司法省の時代から、100年にも渡る長い歴史を持っています。

私が今まで担当した中で特に印象深い施設は女子刑務所です。最近完成した福島刑務支所を含め現在全国には7ヶ所の女子刑務所がありますが、そのうち、代々女性技官が担当するという事で三代目を引継いだ和歌山刑務所、女子受刑者の増加に対応するため増築を行った栃木刑務所と岐阜の笠松刑務所を担当しました。フランス・「プロヴァンスの三姉妹」修道院のように、私の中でこの3施設は三姉妹です。定員300人からどんどん増築を重ね今では定員650人、それでも足りずに800人以上を収容している懐の深い長女・栃木刑務所。他の刑務所にはない柔らかく明るく自由な雰囲気さえある個性的な次女・笠松刑務所。そんな姉二人を見て育った(参考にして設計された)合理的で現代っ子の三女・和歌山刑務所。いずれ劣らぬ愛着を感じる施設です。

そして、現在の仕事についてですが、昨年4月に予算要求を行う企画係という部署に異動しました。初め





和歌山刑務所 近隣からも親しまれ明るく開放的

での予算要求作業に四苦八苦し、刑務所の過剰収容対策のための補正予算に寿命を縮めた昨年を教訓に、今年はさらっと片付けるつもりが、前代未聞の衆院解散で「一体いつ夏休みがとれるのだろうか？」と新聞記事を真剣に読み、国会の仕組をまじめに勉強しなかったことを同僚と嘆き合う長い夏を過ごしました。企画係はこれにたいへん勉強になる上に、同じ事は2度と起こらないという刺激に満ちた部署ですが、趣味のサッカー観戦からは遠去かり、W杯開催年の来年は企画係から離れないと！と心底思う毎日です。

「社会人3年目が思っていること」

大橋(沖)晴恵(部36期)
竹中工務店

私は2003年3月に工学部大月研究室を修了し、同年4月に竹中工務店に入社しました。現在社会人3年目です。

竹中工務店の入社1年目は、研修として大阪本店に所属し、新入社員全員が神戸にある寮で共同生活を送ります。私自身も初めて東京の親元を離れて、関西で1年間生活をしてきました。1年間の研修では3部署を経験します。私の場合は見積部、現場監理、設計部の3部署をまわりました。ちなみに現場監理は、女性であれ、必ず経験しなければなりません。実際に体験してみても、職人さん方からかわれたりもしましたが、「関西弁をはなさんやつは東京へ帰れ！」なんて言われたりして必死で関西弁を話していました…。毎日、毎日大勢の人たちの手で建物をつくり上げていく

現場は本当に感慨深く、貴重な経験でした。

1年間の研修が終了した後は、東京本店設計部に配属になり現在に至ります。私は設計部のなかでも主に集合住宅の設計を扱う部署に所属しています。学生時には大月先生のもと、集合住宅をメインにして研究をしていたため、学業がそのまま実務へと生かすことができる環境にいます。配属してから携わっているプロジェクトは、今もなお計画中で着工していません。竣工はまだまだ先ですが、少しでも自分の考えが具現化された集合住宅が今後つくりあげられることが、非常に楽しみです。

最近、インターネットで女性の社会進出と出生率の国際比較という記事を読みました。日本は同等の女性社会進出率がある国のなかでも出生率が低いということでした。実際に私の今いる部署は約80人のうち女性は7人、うち既婚者が1人で子供なし。今の仕事を続けながら子育てもすることが今後実現できるか、やや不安に思いつつも、精一杯努力をしてみようと思っているこの頃です。



チカラワザの時代は、
もう終わりました。



できる限りの技術と知恵を駆使すること。
そして安易な妥協を許さないこと。
それが私たちの鉄則です。
あなたの難問に対して、
常にベストな問題解決を提供したいから。
これからの建設へ。

知恵を、集めて、つくる。
Concurrent-Engineering

 **大林組**
OBAYASHI
www.obayashi.co.jp

三松新会長に聞く

本年5月に新会長に就任された三松氏にインタビューし、ご自身のことや 築理会の活動について語っていただきました。

はじめに、会長は築理会の活動に熱心に取り組んでおられますが、その「きっかけ」はなんだったのですか？



2001年に仕事の関係で熊谷組に席を置き、理科大のそばで仕事をすることとなり、そろそろ何か母校に貢献できることはないかと思っていた頃、同期の前会長森本氏から築理会への誘いがあり、幹事を引き受けたいです。

これまで色々お仕事をされてきたと思いますが、これまでの会長の「プロフィール」をお聞かせください。

昭和41年に鹿島建設に入社し、霞ヶ関超高層ビルの現場に配属されました。それ以来、施工部門一筋に歩んでまいりました。担当した主要工事は、東京電力の福島第一及び柏崎・刈羽原子力発電所本館建物の建設、恵比寿ガーデンプレイスの再開発工事、三菱系の本社ビルの建設で、その後、営業所長、建築部長を経て、2001年から熊谷組に参り、現在は鹿島建設のグループ会社に席を置いております。

築理会の様な理科大建築科の卒業生で構成される「OB会」の役割」をどのようにお考えですか？

ホームページでも紹介しましたが、同窓生同士の交流と同窓生と現役の学生との交流の二つがあると考えております。学校を卒業し、社会に出て先輩とすぐに接触できる人もいますが、接点がない人も数多くいると思います。そういった方たちの依り処としての役割、また現役の学生にとって、自分たちの卒業後の将来像を少しでも体験し、役立つものを提供できればと考えております。

築理会のさらなる興隆を期待していますが、そのための今年の「重点活動目標」をお聞かせください。

興隆の前に基盤造りが大切で、前会長と共に、その活動を進めてまいりましたがまだまだ安定的なものとなっております。皆様もご存知のように、築理会も今年40回生を受け入れまして、5千名を越す卒業生となっておりますが、築理会の活動の原資となる収入は、主に会費ですが、卒業生の増加とともに増収となっております。従いまして第一に安定収入の確保がやはり重点課題といえます。

さらなる興隆を目指して築理会の知名度向上を重点目標としております。その道具として、今までは会報を中心に情報提供を行ってきましたが、さらに現在の情報化社会に対応したホームページの充実を進めたく考えております。会員の皆様に利用しやすいものとして。

後輩である建築科の「学生と築理会会員の交流」をなにかお考えですか？

今までの築理会活動の中で学生との交流が少なかったことは事実ですが、先ほどの築理会の知名度を上げるために学生時代から築理会を理解してもらうべく活動も、前会長の時代から重要課題の一つとして取り組んでまいりました。その結果の一つが築理会賞です。今後はそれをさらに充実させ、学生時代から、卒業したら築理会に当然入会すべき、という考えを持ってもらうべく努力を積んでまいります。

その他のものとしては、卒業生の活躍している様子に、身近に接する機会を設けることです。例えば、講演会、現場見学会等を考えています。

これまで築理会の活動に携わってきて、こういう点を改善できたらという「思い」がありましたらお聞かせください。

特に改善ということではありませんが、東京理科大の建築学科の卒業生は、工学部(神楽坂) 理工学部(野田)に分かれておりますが、社会に出ますと理科大卒という、一つのくくりで見られます。将来は何らかの形で、一緒に活動が出来る場面が多くなれば、企業内でも連携がとりやすくなり、ひいては活性化に繋がってくるのではと思っております。

貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございますございました。会長の今後のご活躍を期待しております。



時代が求める「建築士の育成」と「建設産業界の発展」に貢献しています。

| 教育 | 出版 | コンピュータ | メディア | 人材支援 |
|--|---|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 日建学院 多くの資格取得者を輩出している資格取得者養成の名門校。合格率も業界トップの実績を誇っています。(全国135校、660常備教室) ■ 日建工科専門学校グループ 建設業界の担い手育成を目的に、設立された学校法人。資格と就職に強い建築専門の教育機関です。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 出版・書籍 建設業界への最新情報の提供を目的に、30年以上に渡り専門出版物を発行。建築を中心に、インテリア・庭・環境・都市の幅広い分野をカバーする出版物は、実務はもとより資格、教養まで様々な用途にお応えしています。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ システム事業部 OA化による建設業界の合理化・発展を目指し、多数のシステムを開発。建築・土木業支援システムの導入による業務の合理化、最適化を目的に、企業に最適なソフトを提案し、パートナー企業を支援しています。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ デザイン・印刷 パンフレット、雑誌広告等あらゆる印刷物を制作。制作全般に渡るサービスを展開しています。 ■ 株式会社日本映像教育社 建設業界を始め、TV局の番組制作・ビジネスツール等の制作全般、効果的活用方法まで、企業ニーズにお応えする映像をお届けしています。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ ニッケンキャリアステーション 建築系に特化した総合人材バンクの信頼と実績で、建築関連企業を中心とした的確な企業とのお引き合わせを実現。キャリアアップのカウンセラーとして、あなたの就職・転職活動をトータルサポートいたします。 |

日建学院コールセンター ☎ 0120-243-229 経 建築資料研究社 日建学院

〒171-0014 東京都豊島区池袋2-50-1 日建ワールドハウジングセンター 受付/月～金 AM9:30～PM6:30(土・日・祝はお休みいたします) メディアコード: 00247

薬学跡地にOBが手がけた新5号館完成

2005年8月、薬学校舎跡地に新校舎がついに竣工を迎えました。工学部第2部建築学科山名善之助教授（工学部 部25期）が新5号館完成までの道のりと見どころについて、設計に携わった石橋利彦氏（工学部 部5期）、広谷純弘氏（工学部 部15期）、佐野吉彦氏（工学部 部14期）と現場所長を務めた長門徹郎氏（工学部 部18期）に聞きました。（以下敬称略）

山名 この度、新5号館が完成しました。現在も進む理科大の再開発と、その計画のなかで卒業生がどのような形で携わっているかについて教えてください。

石橋 神楽坂キャンパスの再構築は、薬学部が野田キャンパスに移転したのを機にスタートしました。双葉社ビル（旧UFJ銀行）の改修、松本さん（工学部 部17期）が設計を担当した10号館別館の新築、10号館改修と進み、今回、薬学部跡地に都市型化学研究棟としてこの新5号館が完成しました。こうした神楽坂地区と野田地区の再構築マスタープランはOBで編成した東京理科大学建築設計連合体が担当し、今後は2・3・8・7・9号館を一体化した新2号館の建設へと展開します。新5号館は私と広谷さんが主に計画・意匠を担当し、佐野さんが構造・設備を担当しました。

山名 新5号館は後ろに住居地域、手前に外堀通りを控えて、さらに高低差もあるので設計前の条件整理など難しいこともあったと思いますか。

石橋 そうです。この敷地は住居系地域に隣接し、しかも高密度な環境にあるため、研究施設を如何に周辺環境と共存させるかが重要なテーマでした。さらに敷地には高低差が12m以上もあり、その高さを活用して地下4階・地上4階を埋め込むように計画しています。また、外部に対して柔らかく閉じている建物なので、内部においてはできるだけ開放感が得られるように工夫しました。

山名 化学系の学科が入るうえ、体育館を併設するなどプログラムも複雑ですが、苦労なされた点はどんなところですか。

石橋 研究によっては、振動や磁気、電磁波が妨げになります。振動を嫌うにもかかわらず体育館が併設されていますし、外堀通りには地下鉄も通っています。このように、相反するものを成り立つようにしなければいけないので大変なことでした。

広谷 住居地域に建つため、音対策や化学系学科を持つことによる周辺環境への安全性確保という問題もありました。音対策として体育館は地下に設置しました。外観に化学系のメカニカルな感じを表さず、さらにフレキシビリティのあるプランはどうすべきかと考えた結果、外側から廊下、研究室と配置し、中央にメカニカルシャフトと名付けた設備用の吹き抜けをつくっています。外から設備が見えず、騒音も抑えながらフレキシブルに使えるようにしました。安全性に関しては、トラブルがないか屋上に設置した測定器によってリアルチェックして、万が一に備えています。見えない部分の安全に関する情報公開など、学校の運営と一体化したソフトの技術が要求された建物だと思います。機能は建築だけではなく、まわりの環境で決まってくる。これは一つの

テーマでした。

山名 設計連合体のなかで唯一、組織事務所として参加した佐野さんはどんな点で苦労なされたのですか。

佐野 設計では構造・設備面を主に担当しました。斜面を背後に持つ敷地なので、構造的には土圧によって転ぼうとするモーメントの働きにどう抵抗するかが課題でした。また、研究室と体育館のスパンが違うという課題もありました。

山名 技術的な面で課題をクリアするためには、設計だけでなく、施工面でも苦労があったと思うのですが。

長門 どれだけ周辺地盤に影響を与えずに図面通りにつくることがポイントでした。逆打ち工法を採用したので、そのなかで検討していきました。また敷地いっぱい建物建つので、仮設の設置も難しかったですね。吹き抜けが多いので安全面にも気を使いました。近隣に対しては工事の影響をどれだけ最小限に抑えるかという点と、うまくコミュニケーションをとって工事を進めることが課題でした。

山名 学生として過ごしてきた理科大の校舎を設計するという事で思い入れもあると思います。特に設計でこだわった点はどこですか。

広谷 学部や学科を超えたコミュニケーションが取れるように中央に吹き抜けを設け、周りには共同学習コーナーを設けました。最上階の景色のよいところには学生ホールを設置しています。

山名 学生には今までなかったキャンパスライフが生まれるわけですね。研究室というと工場のような暗いイメージがありましたが、新5号館を見た感じでは廊下側からも自然光が入り、天井の納まりもすっきりしていて従来のイメージとは違うように思います。設計上、どのような技術的工夫があるのですか。

石橋 研究室はメカニカルシャフトを挟み込むように背中合わせに配置しています。このメカニカルシャフト側の梁は逆梁として排気ダクトが真っすぐ抜けるようにしてあります。さらに床を厚くしたことで小梁を無くし、ダクトや配管で煩雑になりがちな天井をシンプルに納めました。天井を張らないことも加え、多様な研究を支援する空間のフレキシビリティを実現できたと思います。

山名 納まりなど細かいところまで目が届いてデザインがされているように感じました。図面でもかなり細かいところまで描かれていたのですか



長門 ディテールが細かく設計図書で描かれていました。逃げられないほど(笑)。図面の完成度は非常に高く、感謝しています。

山名 研究室の複合体を設計するため、やりにくかった面もあったのではないですか

石橋 研究室は標準的なモデルをつくりましたが、研究室ごとに解決していかなければならぬことが沢山ありました。大変な作業でしたが、何が大切かと言えば、研究が一番です。考え方を切り替えて一つ一つの研究室を設計し直しました。排水や排気の仕方など基本的な部分は同じですが、45室の研究にすべ別々に対応しています。逆な言い方をすれば、それが可能なフレキシブルな建築であるということができると思います。

山名 卒業生だからこそという面はありましたか

長門 手を抜かないというのは、ほかの物件でも同じですが、思い入れは強かったですね。

広谷 完成したものに問題があると母校だから行きづらくなるというのはあるかもしれません(笑)

山名 この新5号館を卒業生が見学に来ることもあるかもしれませんが。一番見てほしいのはどこですか

石橋 余談になりますが、エントランスの黒いタイルの目地が真っ黒にならず、1本1本塗ることになってしまいました。タイルは5000枚、目地の総長は3km以上、現場の職人だけではなく掃除や警備の人まで参加して最後はまさに手づくりでした。

さらっとしていてプレーンに見える空間ですが、何気なく見るところで苦労しています。

長門 外から見るとさりげない建物ですが、中に入ると吹き抜けがあったり地下に体育館があったり。完成してしまうと何となく見えますが難易度の高い建物です。建築に携わっていない人でもどうやってつくったのだろうと考えてほしいですね。自分だったらどうやってつくるかと思いを馳せてもらえるといいかと。

佐野 我々が在学していたころの研究室は、研究成果を出していればよいと思われていた面があります。しかし今の時代は学生にとっても先生たちにとっても快適な環境で成果を出すことが求められています。安全性など社会に対する説明責任も生じる時代です。従来の大学のあり方から一歩踏み込んでいかないと社会は納得しません。イメージも大切で、大学が勝ち残っていった



めには校舎も重要です。文科系の大学はきれいで雰囲気によければいいのかもしれません。理料系の大学ならばキャンパスが教材であることも考えるべきです。空間を見て、どのように建築が組み立てられているのかを知ることは建築学科だけでなくすべての理料系の学生に非常に大切なことだと思います。



山名 神楽坂では新2号館の建設が近づいています。新2号館はどんな校舎になるのですか。

石橋 新2号館もこのチームが設計を手掛けています。神楽坂キャンパスのシンボルとなる超高層として、中間免震を採用し、デザインもテクノロジーも能力を最大に発揮できるように計画中です。

広谷 中庭やピロティ、緑化した街路などを計画しています。街に開かれたキャンパスであり、建築学科もあるメインの建物として意匠面を含めて今までにないものにしたいですね。

佐野 街の中のキャンパスとして、新しい可能性を感じます。新5号館は街との共存がテーマでしたが、この経験を生かして、これまで神楽坂にありながらつくってこなかった歴史に踏み出したいです。

東京理科大学新5号館建設工事

設計監理：東京理科大学建築設計連合体(石橋徳川建築設計所，建築研究所アーキヴィジョン，アーツ&クラフツ建築研究所，松本剛建築研究室，安井建築設計事務所，U corporation)

建築工事：大成・熊谷・前田建設共同企業体

機械設備工事：東洋熱工業

電気設備工事：きんでん

敷地面積：4,009.18m²

建築面積：1,974.06m²

延べ面積：11,611.03m²

構造・階数：SRC造(ベタ基礎) 地下4階・地上4階

高さ：軒高19.4m、最高高さ24.00m、建物深さ-15.25m

施工期間：2003年6月20日～2005年8月31日

撮影：村井修

現場へGO！（第4回）

理科大OBが施工管理に携わる現場を訪問するこの企画も4回目を迎える。丸ビルと並んで東京・丸の内の顔とも言える新丸ビル。2007年春の完成を目指して工事が進む。超短工期という難題に 部16期卒の増村氏が挑んでいる。

「新丸の内ビルディング」

丸の内に面した東京駅の駅前が大きく変わりつつある。いわゆる三菱村と呼ばれる一帯だ。2002年に丸の内ビルディング（丸ビル）の建て替えが完了、2004年には丸の内オアゾもオープンした。丸ビルとペアでゲートの役割を果たすが、



新丸ビルの作業所長を務める増村清人氏。
増村氏のメールアドレスは
masumura.kiyoto@takenaka.co.jp

現在建設中の新丸の内ビルディング（新丸ビル）、三菱地所が進める丸の内再開発で、第一ステージの最後を飾るビッグプロジェクトだ。地下4階・地上38階、延べ面積約19万5000㎡と、丸ビルより一回り大きい。

施工を受け持つ竹中工務店の作業所長として、55人のスタッフを率いるのが 部16期卒の増村清人氏。新丸ビルの工事は、工費も厳しいが、工期はさらにシビアだ。「33～34カ月が通常の工期だが、この現場で与えられたのは25カ月しかない。完成までは24時間態勢で臨む」と増村氏は気を引き締める。

前代の新丸ビルの解体には2004年秋に着手。5.5カ月の工期を経て、引き続き今年の3月から新たな新丸ビルの建築工事に入った。施工現場を訪れたのは9月初旬のこと。1階床スラブのコンクリート工事の最中で、3分の2のスラブを打ち終えた段階だった。「超短工期を克服するため、躯体工事には逆打ち工法を採用している」と増村氏と言う。1階の床スラブを先行して施工し、地上の躯体と地下の躯体を同時につくっていく考えだ。

地下には取り壊した前代の新丸ビルの松杭がまだ残っている。長さは13mほど。これまで1000本ほど抜いたが、残り約9000本ある。松杭はチップ状にして、一部は床用のボードに再生する。これは、建築主の三菱地所から求められた環境への配慮を具現化したものだ。

さらに、解体したコンクリートのガラも碎石としてリサイクルしている。サイクライトと呼ぶ高品位再生骨材によみがえらせてコンクリート工事に利用する。コンクリートガラは、都内の自社プラントに搬出して

再生した。

増村氏は三位一体で工事に取り組むことの重要性を強調する。建築主と設計者、施工者が一体になってプロジェクトに取り組めば、意思の決定もスムーズになって物事の決定や情報が滞ることはないという。意思決定のスピードが施工コストにも大きく跳ね返る。「建築主と設



新丸ビルの完成予想パース。
設計・監理は三菱地所設計が担当。
外装とメインエントランスのデザインコンセプトは英国の
マイケル・ホプキンス卿が手がける

計者、施工者が一堂に会する飲み会も開いている。物事を進めるには非公式の組織や会議が重要となる（増村氏）

現場ではいま、昼間に約250人の作業員が働く。夜間も50人の作業員が地下道の工事などに当たっている。最盛期の仕上げ工事には2000～2500人の作業員が現場に入る予定だ。増村氏は午前6時半には出社する生活が続いている。6時45分から所員のミーティングを開き、7時から現場作業を始める。作業の終了は午後4時が定時だが、その時間に終わることはない。

新丸ビルの周囲では、東京駅の駅前広場やそれに続く地下駐車場の改築も始まる。新丸ビルが完成するのは2007年の春。「竣工するまでは緊張感を持続していかないといけない。完成したら関係者皆で感激に浸りたい」と、増村氏は決意を新たにしている。

（森 清 = 会報委員会）



1階の床スラブの工事が続く現場の全景。正面に見えるのが丸ビル

学生活動報告

建築系大学27項35学科から選ばれた住宅作品から、優秀な作品に与えられる東京建築士会主催の住宅課題賞の選定が行われました。我が理科大からは、部と部から1名ずつ代表作品が選定に上がり、部の小坂 怜さんの作品が優秀賞に選ばれました。惜しくも入賞を逃した二ノ宮 正行さんとともに、ご紹介します。お二人の今後の活躍に期待します。

「瓢箪坂の家」envelope - ing

小坂 怜

敷地周辺は比較的民家が密集していて、入り組んだ道や坂が多く見られた。近くには人の出入りが激しい公園があり、室内から見える景色としては良くないものばかりで、景色として室内に持ち込み、取り入れたいものが全く無かった。



この住宅は二世帯住宅である。生活には二つの個性がある中、生活空間を二分し、必要な距離感をもつのではなく、それぞれの機能が必要とするボリュームの複数のボックスをレベル差を持ちつつ、庭を中心に配列している。さらに、敷地の傾斜を取り込みながら複数のボックスの外側を包み込む階段により、ボックスからボックスへの移動は各ボックス同士に距離感が持ち込まれ、このことにより、二つの個性を緩やかに繋いでいく。それぞれの用途で区別された個人のためのボックス、外部環境を取り込むポイド、それらを取り巻く共有空間である階段が内外の距離感を保つ外皮で包まれている(envelopeされている)。これらを外皮が包み込むことにより、都市に対しては比較的閉鎖的で、外部からもさえぎられているように思えるが、日々の生活を優しく映し出す外皮は、決して都市を拒絶しない。さらに、庭を含む外気がボックス同士の間一つのポイドとして割り込むことで、どのボックスからも均質な空気・光・風、そして都市ならではの音を感じることができる。

この二世帯住宅の印象としては、外皮に包まれていることで、かなり閉鎖的ではあるが、各ボックスは庭に面している部分に窓を持ち、外皮を通して進入するこの外観からは想像できないようなやわらかい光も各ボックスが持っている入り口の開閉やスリットから感じることができ、閉鎖的空間と思わせないものとなっている。

アプローチの仕方は、この土地の特徴の一つである坂を利用し、坂の上の一つ、坂の下の一つ玄関を設けて、二世帯住宅が成り立っている。二つの個性がある生活・動線・



空間の使い方を二分することもなく、すべての空間が共有空間であることから玄関が分かれていても、全てを包みこんでいる外皮から階段へのアプローチの仕方が二種類存在するだけで、決して生活を二分している訳ではない。

タイトル

二ノ宮 正行

今回住宅課題賞を頂いた作品は、学校近くの若宮公園の半分を敷地とした「ライフデザインをデザインした住宅」という初めての設計課題で制作したものでした。夫婦に子供二人の典型的な核家族のための住宅です。



今日、~LDKと言われるように、住宅が部屋を基準として考えられているように思います。一人一部屋、リビング、ダイニング、キッチンに・・・という具合です。しかし、住み手のメンバー構成は、不変なものとは限りません。子供が生まれたり・その子供が独立したり・結婚した子供と一緒に住むのかもしれない・誰かが死ぬのかもしれない・・・また、季節・時ここでの時は、数時間から数年までを指す)の移ろいの中でそこでの過ごし方も変わってくるのです。こうした、背景から次のような構想へとまとまってきました。

絶えず変化を続けて行くであろう生活に対して、~部屋・~室という現代の固定化された個別化された室の集合体では、それに収まりきろうと窮屈な生活になってしまうと思います。むしろ、人間の行為や目的に応じて住空間は生まれないのかと考え、可変的かつ多様な空間を生み出す単純な装置を考案します。

畳の空間に1mピッチで格子状の溝設け、建具を必要に応じて嵌めることで多様な生活になじむ空間が生まれると考えます。外部の環境にもなじませるために、蔭戸・無双窓・雪囲い戸で住宅全面を覆うことにします。

建具を用いることで、内 外、内部空間同士において、閉鎖的開放的の調節により常にいい関係が築けると思います。そして、「内部では、行為・目的が生まれることで場を定義し、その変化に応じて再定義を繰り返す。外部と内部の間では、最適な密度が保たれ、両者の関係が調停される。」といった具合に、エスキスの過程の中で、それまでの人生の中で立ち上がってきた一般的な固定観念の壁を崩し、再考した上で、この課題について新たにその位置をみつけることができました。

これからも、固定観念にとらわれず、一度リセットされた所から設計を考えることができたらいいなと思います。



築理会総会・懇親会レポート

5月14日・理窓会館会議室にて、総会が開催されました。
三松一宇会長の挨拶・開会宣言に続き、議題の審議と採決が取られました。

決議事項は下記の4案で、すべて全員一致で賛成議決されました。

- ・第1号議案：会則改定
- ・第2号議案：平成16年度決算
- ・第3号議案：平成17年度予算
- ・第4号議案：役員変更

第1号議案 築理会会則改定の件 (改定 平成17年5月14日)

| 現 行 | 改 定 案 | 改定内容 |
|---|---|-------------------|
| | 第19条 (監査役) 監査役は顧問、幹事の中から役員会で選出し、その任期は2年とする。但し、再任は妨げない。監査役は本会の会計を監査する。 | 新たに追加 |
| 第19条 (顧問) | 第20条 (顧問) | 現行19条を20条に条文に変更なし |
| | 第21条 (名誉幹事) 名誉幹事は役員の経験者で、築理会の活動に貢献された方とし、役員に準ずる立場で会の活動に協力することができる。 | 新たに追加 |
| 第20条 (罷免) | 第22条 (罷免) | 現行20条を22条に条文に変更なし |
| 第6章 役員会 第21条 (役員会) | 第6章 役員会 第23条 (役員会) | 現行21条を23条に条文に変更なし |
| 第22条 (役員会の決定事項) 第7章 会計 第23条 (会計) 第24条 (決算) 第25条 (会計年度) 第26条 (会計監査) 第8章 寄付 第27条 (寄付) 第9章 改定 第28条 (改定) 第10章 会費 第29条 (会費) | 第24条 (役員会の決定事項) 第7章 会計 第25条 (会計) 第26条 (決算) 第27条 (会計年度) 第28条 (会計監査) 第8章 寄付 第29条 (寄付) 第9章 改定 第30条 (改定) 第10章 会費 第31条 (会費) | 以下同様 |

平成16年築理会決算報告

| 収 入 | | 支 出 | |
|-----------|-----------|--------|-----------|
| 平成15年度繰越金 | 1,149,686 | 会報(2回) | 744,356 |
| 築理会会費 | 1,433,500 | 名簿 | 891,497 |
| 広告収入 | 486,915 | 事業支出 | 0 |
| 総会より | 45,171 | HP維持費 | 216,555 |
| その他 | 7 | 事務費 | 145,902 |
| | | 運営費 | 103,819 |
| | | 通信費 | 8,140 |
| | | 来年度繰越金 | 1,005,010 |
| 合 計 | 3,115,279 | 合 計 | 3,115,279 |

築理会名簿の記載について

築理会としましては平成18年度版の築理会名簿発行の準備にかかっていますが、「個人情報保護法」などにより、個人情報に関しましては、今後慎重に取り扱っていきたく考えています。現在、記載している情報は下記です。
氏名・勤務先・勤務先(TEL,FAX)・自宅住所・自宅(TEL,FAX)もし、上記の記載を希望しない場合は、全部なのか、あるいは電話番号などだけなのか、ご連絡ください。
次回名簿には載せないようにいたします。
ただし、公開はしませんが、情報としましては築理会で把握しておきたいので、従来通り、変更などはお知らせいただければと思います。連絡は下記のFAXでお願いします。
築理会03-3235-6897

平成17年会費納入のお願い

現在、平成17年度の会費の納入をお願いしております。同封の振込用紙にて、お振り込み下さい。
今後のさらなる築理会発展のため、多くの方のご協力をお願いします。

年会費 3,500円
加入者名 築理会
口座番号 郵便局 00110-5-171952

平成17年築理会予算案

| 収 入 | | 支 出 | |
|-----------|-----------|---------|-----------|
| 平成16年度繰越金 | 1,005,010 | 会報(2回) | 750,000 |
| 築理会会費 | 1,530,000 | 名簿 | 230,000 |
| 広告 | 400,000 | 事業支出 | 250,000 |
| | | 事務費・運営費 | 350,000 |
| | | 通信費 | 60,000 |
| | | 予備費 | 100,000 |
| | | 繰越金 | 1,195,010 |
| 合 計 | 2,935,010 | 合 計 | 2,935,010 |

参加者は3名の先生方(平野・直井・山名)を含め35名、それに野田建築会より菊地会長が出席されました。

総会終了後は、恒例の親睦会が開催されました。同期の会員が一列に並んでの挨拶では、懐かしい顔ぶれが並び、思わず笑顔がこぼれる楽しい一時でした。



「新旧会長勢ぞろい」

「編集後記」

東京で暮らしていても、この街の変化の速度には驚かされます。しばらく足を運んでいないところに行くと、あっと思うことが多くあります。しかし新丸ビルのような大規模な工事も2年で終わるといふ増村さんのお話を聞けば、それも当然のことかもしれません。そしてその最前線にいるのが建築の仕事だとあらためて感じました。(広谷 純弘hiro@archivision.co.jp)

築理会報2005秋号
2005年10月発行 Vol.37

発行所 : 東京都新宿区神楽坂1-3
東京理科大学工学部 部建築学科
築理会事務局 03-3260-4271(内3293)
03-3235-6897(FAX)

編集長 : 広谷 純弘
編集委員 : 石神一郎、森清、伊藤学、安達功、渋川克也、
山名善之、平賀一浩、菊池宏、東有紀
印刷発送 : グローバルシステム株式会社